家庭数配付　　かがやけ太陽の子　「　友情　努力　笑顔　」

学校だより　　新潟市立江南小学校　　令和４年６月24日

江南の子

令和４年度
第４号

素晴らしきかな 悩ましきかな 仲間集団

校長　　藤井　正人

「人中が薬」…若者は世間で多くの人と交わることが何よりの修養となる，という意味の諺です。様々な調査で分かるのは「学校に行くと友達に会えるから楽しい」と回答する子どもが多くいることです。「勉強よりも友達」というのが子どもたちの本音でしょう。学校での休み時間や放課後，登下校時，子どもたちは私達教師の目の届かないところで，友達と自由にコミュニケーションをしています。その時間がいかに楽しいことか。

そして，友達づきあい，仲間集団は，子どもたちの成長に大切な役割を果たしています。教育学者の広田照幸氏（日本大学教授）は，その主な役割として次の２つを挙げています。

① 親や教師のような上下関係を前提にした評価ではなく，水平的な関係の中で，お互いに他の仲間から認められることで，安定した人格を築くことにつながる。
② 仲間集団の中で自分たちでものを考え，ものを決め，行動することが，自立した大人になるために必要な試行錯誤の機会になっている。

このような素晴らしき仲間集団の役割を助長するために，学校教育では何ができるか。

例えば，先日１年生のある学級は，道徳科で「みんなじょうず」という主題で学習していました。自分や友達の「じょうず」なところをたくさん見付けてiPadのロイロノートで紹介し合う学習です。『おえかきがじょうず』『はしるのがじょうず』『ひらがながじょうず』…このような学習で醸成される**「周りの友達のよいところに注目する」**という態度は，仲間集団①の役割を助長する基盤となります。

例えば，先週実施された６年生の会津修学旅行。２日目は，グループ別に会津のまちを巡回・探検しました。事前に５，６人グループで昼食を挟んだ４時間の使い方を話し合い，活動計画を立て，それを基に自分たちだけで行動します。これは，**子どもたちに裁量権が大きく委ねられている活動**です。つまり学校教育で行うことは，仲間集団の役割②が発揮される場と類似した教育活動を設定することです。

当日は，予定していた周回バスに乗れなかったグループ，メンバーの一人がバスの中に忘れ物をしてしまったグループ，昼食場所が混んでいて時間をロスしてしまったグループ等…「予定外」の事態が少なからず起きました。そのようなとき，どのように調整するか，折り合いを付けるか，我慢をするか，まさに自立した大人になるための試行錯誤の場でもあります。幸い，全グループが時間までに，笑顔で帰着することができました。

ただ，仲間集団では，当然好ましくない状況も生まれます。その最たるものがいじめ。そして，悩ましきことにそれは大人の目の行き届かないところで起きてしまいます。そこで先週学校で行ったのがアンケートを基にした教育相談です。併せて，私達は日頃から，子どもの微弱なＳＯＳを感知するよう努める必要があります。

夏休みまであと１か月。子どもたちの仲間集団を温かく，きめ細かく見守っていきます。